

徳島城博物館・旧徳島城表御殿庭園

徳島中央公園の旧城跡にあるこの博物館では、徳島の豊かな歴史と文化を紹介しています。徳島藩祖であった蜂須賀家の生涯や、及ぼした影響力を知ることができます。また、阿波踊りや藍産業などの地域文化の重要性が、四国地方全体の歴史にどのように溶け込んでいったかを知ることができます。

徳島城は現存していませんが、広大な表御殿庭園が残っています。博物館に隣接しており、一度の訪問で簡単に見ることができます。

蜂須賀家政（1558～1638）が徳島藩祖に任命されたのを機に、1586 年に城を完成させました。城が日本の封建時代の遺物とみなされていた明治初期（1868～1912 年）に多くの城が取り壊されていたと同様に、徳島城は 1875 年に取り壊されました。現在は石積みだけが残っています。

徳島城博物館は、1992 年に同じ敷地内に開館しました。江戸時代(1603–1868)の旧蜂須賀家の城だった頃の日本の伝統的な建築様式を反映したデザインとなっています。館内の展示品には、甲冑や刀剣、着物などが展示されており、彼らの文化的で多面的な生活を示しています。また、蜂須賀家は芸術品を高く評価しており、展示品には何点かの素晴らしい絵画や、装飾された屏風などのコレクションがいくつか含まれています。

博物館では、城下町として栄えた時代の徳島の暮らしを表す歴史地図や図表などを展示しています。庶民の生活を描写する住宅や店舗の等身大模型。水軍のコーナーでは、江戸時代末期に蜂須賀家が所有していた船「千山丸」が展示されています。歴史家たちは、このスタイルで現存する日本船はこれが唯一であると考えています。千山丸は国の重要文化財に指定されています。

館外では、旧城の前庭である表御殿庭園を散策することができます。景観の良い池や枯山水など、伝統的な要素を取り入れています。1600 年頃、茶人武将の上田宗箇（1563～1650）が、伝説的な茶人千利休（1522-1591）の元で学び、庭園の造営を監修しました。現在、この庭園は名勝に指定されています。

長さ 10.5 メートルもある緑泥片岩の未完成品で作られた橋等、庭にはいくつもの石橋が架かっています。庭園は自由に散策することができます。子どもたちは、池の中に住む魚やカメ、その周辺にいる鳥などを見つけ、隠れた魅力を探りながら楽しめます。